

耳鼻咽喉科・頭頸部外科学

1 構 成 員

	平成 25 年 3 月 31 日現在	
教授	1 人	
准教授	1 人	
講師（うち病院籍）	3 人	(3 人)
助教（うち病院籍）	4 人	(2 人)
診療助教	2 人	
特任教員（特任教授、特任准教授、特任助教を含む）	0 人	
医員	3 人	
研修医	0 人	
特任研究員	0 人	
大学院学生（うち他講座から）	1 人	(0 人)
研究生	0 人	
外国人客員研究員	0 人	
技術職員（教務職員を含む）	2 人	
その他（技術補佐員等）	3 人	
合計	20 人	

2 教員の異動状況

- 峯田 周幸（教授）（H15.5.1～現職）
- 水田 邦博（准教授）（H15.11.1～19.3.31 助教授；19.4.1～現職）
- 細川 誠二（講師）（H16.4.1～19.3.31 助手；19.4.1～22.2.28 助教；22.3.1～現職；25.2.1～休職）
- 大和谷 崇（講師）（H16.3.1～19.3.31 助手；19.4.1～助教；25.3.1～現職）
- 三澤 清（講師）（H22.4.1～助教；25.3.1～現職）
- 岡村 純（助教）（H21.12.1～現職；23.1.1～休職）
- 高橋 吾郎（助教）（H22.10.1～現職）
- 杉山 健一（助教）（H23.1.1～現職）
- 伴 昭宏（診療助教）（H24.1.1～現職）
- 望月 大極（助教）（H24.1.1～現職）
- 石川 竜司（診療助教）（H25.3.1～現職）

3 研究業績

数字は小数 2 位まで。

	平成 24 年度	
(1) 原著論文数（うち邦文のもの）	11 編	(2 編)
そのインパクトファクターの合計	24.97	
(2) 論文形式のプロシーディングズ及びレター	0 編	
そのインパクトファクターの合計	0.00	

(3) 総説数 (うち邦文のもの)	1 編	(1 編)
そのインパクトファクターの合計	0.00	
(4) 著書数 (うち邦文のもの)	0 編	(0 編)
(5) 症例報告数 (うち邦文のもの)	5 編	(2 編)
そのインパクトファクターの合計	3.61	

(1) 原著論文 (当該教室所属の者に下線)

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. Yamatodani T, Holmqvist B, Kjellén E, Johnsson A, Mineta H, Wennerberg J.:Using intravital microscopy to observe bevacizumab-mediated anti-angiogenesis in human head and neck squamous cell carcinoma xenografts. Acta Otolaryngol. 2012 Dec;132(12):1324-33 [1.084]
2. Oshima G, Wennerberg J, Yamatodani T, Kjellén E, Mineta H, Johnsson A, Ekblad L. : Autocrine epidermal growth factor receptor ligand production and cetuximab response in head and neck squamous cell carcinoma cell lines. J Cancer Res Clin Oncol. 2012 Mar;138(3):491-9. [2.485]
3. Hosokawa S, Mizuta K, Takahashi G, Okamura J, Takizawa Y, Hosokawa K, Yamatodani T, Mineta H. : Surgical approach for treatment of carcinoma of the anterior wall of the external auditory canal.Otol Neurotol. 2012 Apr;33(3):450-4. [1.904]
4. Misawa K, Kanazawa T, Misawa Y, Imai A, Endo S, Hakamada K, Mineta H : Hypermethylation of Collagen $\alpha 2(I)$ Gene (COL1A2) is a Potential Biomarker in Head and Neck Cancer. Cancer Biomarkers ; 10:135-144, 2012 [1.067]
5. Misawa K, Kanazawa T, Misawa Y, Imai A, Uehara T, Mochizuki D, Endo S, Takahashi G, Mineta H : Frequent promoter hypermethylation of tachykinin-1 and tachykinin receptor type 1 is a potential biomarker for head and neck cancer. J Cancer Res Clin ; 139:879-889, 2013 [2.558]
6. 細川誠二、望月大極、杉山健一、岡村純、瀧澤義徳、高橋吾郎、三澤清、大和谷崇、峯田周幸 : 耳下腺腺房細胞癌の6症例. 頭頸部癌 38(1): 56-59, 2012.
インパクトファクターの小計 [9.098]
7. 大和谷崇、水田邦博、中西啓、瀧澤義徳、細川久美子、細川誠二、峯田周幸 : 上咽頭癌放射線治療後に側頭骨壊死をきたした3例. 耳鼻臨床 105(9): 821-825, 2012.
インパクトファクターの小計 [1.657]

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの (学内の共同研究)

1. Motohashi S, Mino Y, Hori K, Naito T, Hosokawa S, Furuse H, Ozono S, Mineta H, Kawakami J: Interindividual variations in aprepitant plasma pharmacokinetics in cancer patients receiving cisplatin-based chemotherapy for the first time. Biol Pharm Bull 36 (4); 676-681, 2013 [1.657]
インパクトファクターの小計 [1.657]

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

1. Huang Y, Jeong JS, Okamura J, Sook-Kim M, Zhu H, Guerrero-Preston R, Ratovitski EA: Global tumor protein p53/p63 interactome: making a case for cisplatin chemoresistance. Cell Cycle 11(12):2367-2379, 2012[5.243]
2. Huang Y, Bell LN, Okamura J, Kim MS, Mohny RP, Guerrero-Preston R, Ratovitski EA: Phospho-□Np63α/SREBF1 protein interactions: bridging cell metabolism and cisplatin chemoresistance. Cell Cycle 11(20):3810-3827, 2012[5.243]
3. Brait M, Ling S, Nagpal JK, Chang X, Park HL, Lee J, Okamura J, Yamashita K, Sidransky Kim MS: Cysteine dioxygenase 1 is a tumor suppressor gene silenced by promoter methylation in multiple human cancers. PLoS One 7(9)e44951, 2012[3.730]

インパクトファクターの小計 [14.216]

(2-1) 論文形式のプロシーディングズ

(2-2) レター

(3) 総 説

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. 細川誠二、水田邦博、峯田周幸: 特集/頭頸部扁平上皮癌の最新情報; 聴器の扁平上皮癌. JOHNS28 (8): 1228-1232, 2012.

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの (学内の共同研究)

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

(4) 著 書

(5) 症例報告

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. Hosokawa S, Okamura J, Sakai N, Mineta H: Primary spindle cell carcinoma of the frontal sinus. J Oral Maxillofac Surg 70(11): e674-e678, 2012 [1.640]
2. 細川誠二、武林悟、岡村純、瀧澤義徳、細川久美子、大和谷崇、峯田周幸: 肺転移を来した上顎骨エナメル上皮腫例. 耳鼻臨床 105(5): 447-451, 2012.
3. 杉山健一、峯田周幸: 喉頭原発神経内分泌小細胞癌の1症例. JOHNS 29 (2) :267-271, 2013.

インパクトファクターの小計 [1.640]

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの (学内の共同研究)

1. Mochizuki T, Kamio Y, Hosokawa S, Kimura T, Yoshino A: Brain infarction after dissection of the intrathoracic arteries secondary to acute epiglottitis. Am J Emerg Med 31(2): 463.e3-e5, 2013 [1.976]

インパクトファクターの小計 [1.976]

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

1. Kanazawa T, Fukushima N, Tanaka H, Shiba J, Nishino H, Mineta H, Ichimura K. :Parotid small cell carcinoma presenting with long-term survival after surgery alone: a case report. J Med Case Rep. 2012 Dec 28;6(1):431. doi: 10.1186/1752-1947-6-431.

4 特許等の出願状況

	平成 24 年度
特許取得数（出願中含む）	0 件

5 医学研究費取得状況

(万円未満四捨五入)

	平成 24 年度
(1) 文部科学省科学研究費	4 件 (708 万円)
(2) 厚生労働科学研究費	0 件 (0 万円)
(3) 他政府機関による研究助成	0 件 (0 万円)
(4) 財団助成金	0 件 (0 万円)
(5) 受託研究または共同研究	0 件 (0 万円)
(6) 奨学寄附金その他（民間より）	9 件 (333 万円)

(1) 文部科学省科学研究費

1. 峯田周幸（代表者）基盤研究（C）頭頸部癌におけるゲノム網羅的なエピジェネティック解析 120 万円（新規） 三澤 清（分担者）40 万円
2. 三澤 清（代表者）基盤研究（C）頭頸部癌における癌幹細胞の役割と新規治療法の探索 116 万（継続） 峯田周幸（分担者）60 万円
3. 高橋吾郎（代表者）基盤研究（C）頭頸部癌アウトカム・リサーチに関する基礎的研究 230 万円（新規）
4. 杉山健一（代表者）若手研究（B）メニエール病(内リンパ水腫)の質量分析イメージングを用いた解析 142 万円(継続)

(2) 厚生労働科学研究費

(3) 他政府機関による研究助成

(4) 財団助成金

(5) 受託研究または共同研究

6 新学術研究などの大型プロジェクトの代表，総括

7 学会活動

	国際学会	国内学会
(1) 特別講演・招待講演回数	0 件	0 件
(2) シンポジウム発表数	0 件	0 件

(3) 学会座長回数	0 件	8 件
(4) 学会開催回数	0 件	0 件
(5) 学会役員等回数	0 件	15 件
(6) 一般演題発表数	4 件	

(1) 国際学会等開催・参加

- 1) 国際学会・会議等の開催
- 2) 国際学会・会議等における基調講演・招待講演
- 3) 国際学会・会議等でのシンポジウム発表
- 4) 国際学会・会議等での座長
- 5) 一般発表

口頭発表

ポスター発表

1. Mizuta K, Nakanishi H, Yamatodani T, Takizawa Y, Hosokawa K, Mineta H : Two cases of ossicular anomalies treated with cartilage interposition technique. 9th International Conference on Cholesteatoma and Ear Surgery, June, 2012, Nagasaki.
2. Hosokawa S, Mizuta K, Takahashi G, Sugiyama K, Okamura J, Takizawa Y, Hosokawa K, Yamatodani T, Misawa K, Mineta H : Surgical approach for treatment of carcinoma of the anterior wall of the external auditory canal. 8th International Conference on Head and Neck Cancer, Toronto, ON, Canada, July 21-25, 2012.
3. Misawa K, Kanazawa T, Carey TE : Galanin has a Tumor Suppressor Activity and is Frequently Inactivated by Aberrant Promoter Methylation in Head and Neck Cancer. 103rd AACR Annual Meeting 2012 Chicago
4. Misawa K, Kanazawa T, Hosokawa S, Sugiyama K, Imai A, TE. Carey, Mineta H : Galanin receptor type 2 has Tumor Suppressor Activity and is Frequently Inactivated by Aberrant Promoter Methylation in Head and Neck Cancer. AHNS 8th International Conference 2012 Toronto

(2) 国内学会の開催・参加

- 1) 主催した学会名
- 2) 学会における特別講演・招待講演
- 3) シンポジウム発表
- 4) 座長をした学会名
 - 峯田周幸 第 113 回日本耳鼻咽喉科学会
 - 峯田周幸 第 36 回日本頭頸部癌学会
 - 峯田周幸 第 74 回日本耳鼻咽喉科臨床学会
 - 峯田周幸 第 21 回日本頭頸部外科学会
 - 峯田周幸 第 60 回中部地方部会連合会

峯田周幸 第22回日本耳科学会
 水田邦博 第113回日本耳鼻咽喉科学会総会
 水田邦博 第22回日本耳科学会

(3) 役職についている国際・国内学会名とその役割

峯田周幸 日本耳鼻咽喉科学会静岡県地方部会長
 峯田周幸 日本耳鼻咽喉科学会代議員
 峯田周幸 日本頭頸部学癌学会代議員
 峯田周幸 日本口腔咽頭学会評議員
 峯田周幸 日本鼻科学会評議員
 峯田周幸 日本喉頭科学会評議員
 峯田周幸 日本頭頸部外科学会理事
 峯田周幸 日本気管食道学会理事
 峯田周幸 日本耳鼻咽喉科免疫アレルギー学会評議員
 峯田周幸 日本耳鼻咽喉科感染症研究会評議員
 峯田周幸 耳鼻咽喉科臨床学会評議員
 峯田周幸 日本小児耳鼻咽喉科学会理事
 水田邦博 日本耳鼻咽喉科学会代議員
 水田邦博 日本耳科学会代議員
 水田邦博 日本耳鼻咽喉科学会福祉医療・成人老年委員会委員

8 学術雑誌の編集への貢献

	国内	外国
学術雑誌編集数（レフリー数は除く）	2件	0件

(1) 国内の英文雑誌等の編集

Auris Nasus Larynx (Editorial Board)
 Japanese Journal of Clinical Oncology (Editorial Board)

(2) 外国の学術雑誌の編集

(3) 国内外の英文雑誌のレフリー

2回、 Auris Nasus Larynx (Japan)
 2回、 Japanese Journal of Clinical Oncology (Japan)

9 共同研究の実施状況

	平成24年度
(1) 国際共同研究	0件
(2) 国内共同研究	0件
(3) 学内共同研究	0件

(1) 国際共同研究

- (2) 国内共同研究
- (3) 学内共同研究

10 産学共同研究

	平成 24 年度
産学共同研究	0 件

11 受賞

- (1) 国際的な授賞
- (2) 外国からの授与
- (3) 国内での授賞

12 研究プロジェクト及びこの期間中の研究成果概要

1. 頭頸部癌におけるDNAメチル解析

近年、DNA のメチル化を始めとするエピジェネティックな変化が、RNA 合成、ひいてはタンパク質の発現を抑制することから、癌化機構の一つとして認識されている。当教室では、手術検体からのサンプルを使用し癌抑制遺伝子のDNAメチル化解析を行っている。サンプル数は頭頸部扁平上皮癌としては世界でも有数のサンプル数を保有している。特に、Ganainin、T achykinin、Somatostatin などのニューロペプチドとそのレセプターのメチル化解析を行っており頭頸部癌における役割を解析検討している。トランスレーショナルリサーチとして、DNAメチル化マーカーによる予後解析を行っており手術治療患者の術後追加治療の必要性などを検討している。また、最近のトピックスである中咽頭癌のHPV感染が注目されている。生検材料を使用してHPV関連の有無を迅速に確認し治療方針の参考にしている。

(峯田周幸、三澤 清)

2. 質量顕微鏡による内耳の分析

前庭を質量顕微鏡により解析し日本耳鼻咽喉科学会で発表した。今後も継続しさまざまな病態での解析を行う。

(水田邦博、瀧澤義徳、杉山健一)

3. 頭頸部癌アウトカム・リサーチに関する基礎的研究

頭頸部癌に対するアウトカム・リサーチにおける基礎調査を行った。具体的には、頭頸部癌アウトカム・リサーチに利用可能な、フ・ロセス評価・アウトカム評価となり得る指標を検討した。フ・ロセス評価項目としては、匿名化された患者識別情報、治療前診断、病理、治療、予後情報の6項目が妥当と考えられた。また、アウトカム評価としては、英語版か・国際的に広く使用されその位置付けか・確立されていること、日本語版か・正式な手続きを経て作成されその妥当性や信頼性か・計量心理学的に評価されていること等を選択の基準とし、包括的健康関連 QOL 評価指標として SF-36v2 を、疾患特異的 QOL 評価指標として EORTC-QLQ-C30-j、HN35-j が適していると考えられた。

(高橋吾郎)

- 13 この期間中の特筆すべき業績, 新技術の開発
- 14 研究の独創性, 国際性, 継続性, 応用性
- 15 新聞, 雑誌等による報道